

ホーム名:グループホーム(2F)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「地域に愛され信頼されるホームを目指します。」家庭的な環境と地域住民との交流のもとで尊厳あるその人らしい生活を目指します」掲げ、朝礼時に唱和し理念を共有し実践に向けて努力している。	理念の主旨は、地域に愛される事の大切さを謳い、同時に家庭的で尊厳ある生活の実現をも約束されている。これは地域密着型の内容を踏まえたものといえる。職員はこの基本方針をよく理解し、共有の認識を高める為においても唱和を執行されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の八百屋に買い物に行ったり職員とスーパーに出かけたりしている。コロナ過で頻度が減っているが感染者数が少ない時期を見計らって実施している。	コロナ渦以前には、よく地域行事の夏祭りや、年末の夜警に加わったりたりされ、積極的に幅広く活動されていた。しかし、コロナ渦はまだ完全には解消されてはいないので、従来のように地域との全面的な交流は難しい情勢にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ここ数年は実施できていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議でイベントや入居状況、事故・苦情など様々なことについて話し合い、報告をしサービス向上につなげています。	2ヶ月毎に運営推進会議は実施されている。参加者は管理者、当施設職員、みとう関係の他の施設職員、外部からは地域包括支援センター、町会の方などがあり、事業所内の入居状況、事故・ヒヤリハット、行事結果、予定などの報告を受けて、意見交換や助言などもされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	区の生活支援担当の職員とは生活保護利用者様の手続きなどで協力関係にあります。また介護事故発生時には速やかに報告させて頂いています。	区役所生活支援の担当者とは生活保護者の方の申請手続き上の件で、よく相談されたり指導を受けられたりされている。ケアプランの方針を持って行かれたり、事故報告をされたりして事業所の方から積極的に関わりを持つ為の努力をされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	施設のすぐ前が交通量の多い道路のこともあり、ご家族様の同意を得て、玄関は施錠させていただいています。会社全体の研修で身体拘束についての研修を行っており、定期的開催される委員会でも拘束がないかどうか話し合いを行っています。	法人全体で定期的な研修会が行われて身体拘束のしない支援のあり方が話し合われている。職員に身体拘束防止の研修をされ、未出席の職員にも研修の記録の配信がなされ全員が周知されるよう図られている。玄関の施錠については単独外出の危険を避ける為であり、家族の理解も得られている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で定期的に虐待防止に関する研修を行い、虐待防止についての理解、認識を深めている。参加できない職員にはミーティングの際に資料を用い研修報告を行い、全職員が周知できるように努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>会社全体の研修で権利擁護に関する研修もあり、それに参加又は伝達を行い、制度などについて学んでいる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には施設の見学をして頂き、方針や重要事項説明書、運営規定を用いて理解・納得していただくまで説明を行っています。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情や相談など意見箱を設置しています。また管理者やケアマネージャーに対して直接電話でご意見などをいただき運営に反映させて頂いています。</p>	<p>家族の訪問時によく会話をされて意見や要望を話されていたが、コロナ渦の現状では電話で話される場合が多くなっており、また、話しやすい応対もされている。意見箱の設置もされているがあまり利用はされていない。管理者は意見の反映に努めている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>事業所内のミーティングで会社の方針を報告、意見や提案があれば管理者から本部へ報告を行っている。毎朝の社長メールを全職員で共有し会社の方針を理解し共有している。</p>	<p>職員会議や事業所内のミーティング時などの機会に意見や要望を話される場合と、普段のケア時の事についての件では、仕事の会話の中で話される場合もある。管理者は本部に報告され、反映できるように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>半年に一度、全職員に対する面談を行い、要望や困っていることなど聞き取りを行っている。管理職はその要望などをまとめ代表者と面談、職場環境がよりよくなるように努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修はいろいろな職員が参加できるように配慮している。職場外の研修についても救命訓練など参加している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ以前は毎週木曜日に早朝勉強会を行い、同法人の他の職員と一緒に研修を行ったり情報交換をするなどしていたが、現在は行っていない。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>御利用者様の不安なことや困っていることを時間をかけて話し合い、より良い信頼関係を気づけるように心がけている。入居時にはご自宅で使用されていた家具を使用、写真などを飾り、なじみのある安心した環境で過ごして頂けるように心がけています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用前に、ご本人様、ご家族様、ケアマネージャーなどからお話を伺い、信頼できるような関係になれるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様とご家族様の要望、必要としている支援を伺い、ほかのサービスも含めその時にできる最善の支援を提案するようにしています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>御利用者様一人一人をお客様でありながらも家族の一員であると考え、信頼関係を気づき、一緒に生活をしながら穏やかに過ごしていただけるように心がけています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様と本人様の関係性を大切にし、ご家族様と連携しながらご本人様を支える支援に努めています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>通われていた病院にそのまま往診していただいたり、通院している利用者様は多いです。お付き合いのあった友人がホームに来所されることもあります。(面会が可能な時期であれば面会していただいています。)</p>	<p>利用者の友人の方や馴染みの場所への出向きは、コロナ渦の以前ではよくされていたが、感染防止の為に現在は中断状態である。ただ、医療関係では完全感染防止対策の上、往診・通院はされている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利利用者様同士が良好な関係を気付けるように座席を工夫し、職員が間に入り一緒に会話をし、利用者様同士が関わり合いを持てるような支援を行っています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した、御利用者様のご家族様とも関係を断ち切らないように心がけています。近隣にお住いの元御利用者様の家族様とも挨拶をする機会などもあります。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様から希望や意向を伺い、生活がよりよくなるように努めています。意思疎通が困難な方にはご家族様に相談したり、職員間で話し合いをしてより良い支援ができるように検討しています。	利用者の普段の生活の態度や様子を、よく観察される事が大切であるとの認識をされている。話し掛けもされて利用者の心意を理解するようにされている。職員は互いに話し合い、正確な把握に務められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様、ご本人、担当ケアマネジャーなどからこれまでの生活歴などについて伺い、より良い支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が毎日のケアを通じ、利用者様一人一人の心身の状態を観察し、変化がないか配っています。気になる利用者様は朝礼時やミーティング時に報告をしよ話し合いを行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が毎日のケアを通じ、利用者様一人一人の心身の状態を観察し、変化などないか気を配っています。毎朝のミーティングで気になる利用者様について少し話す時間を作っています。	利用者のケアを通じて感じられた内容を記録されたり、職員のミーティング時の話を参考にされ、担当医師や訪問看護師の意見や助言も受けられ家族の意向も取り入れられて介護計画を作成されている。6か月間を期間とされているが見直しは常にされており利用者の現状に沿った支援をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の言動などを日誌に個別に記入し、申し送りやミーティングの際に職員間で共有しより良いケアにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる利用者様の状況に合わせて、できる限りのサービスを行っています。具体的には面会時間の融通や泊まり込み、他事業所の連携支援などで柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーでの買い物、公共の公園などを利用した外出、町会の催し物の参加など地域の資源をできる限り活用した支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に往診を依頼し、特別なことがあればかかりつけ医の指示のもと専門医を受診するなどしています。	事業所の協力医は複数あり、緊急時に対応できる体制は充実されているが、利用者の要望も重要視されており、入所前からのかかりつけ医の受診も可能である。ただ、緊急時に対応できない場合はかかりつけ医の指示のもと専門医の受診をするなどとされている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設デいの看護師や、毎週木曜日に医療連携訪問看護で提携の看護師に来ていただき。日々の状態の報告やケアに対するアドバイスを頂いています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院がスムーズに行えるように、病院関係者と情報提供書などを通じて連携を図っています。退院時のカンファレンスなども参加しています。(コロナ時はリモート)</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>心身の状態が低下し始めた場合、Drに相談を行い、ご家族様とも密に連絡を取るよう心がけています。事業所としてできる事、できないことを説明し医今後の方針を決め、本人様を尊重しながら最善のケアができるよう心がけています。</p>	<p>入所の説明時に重度化した場合における対応について再度、話し合う事で同意されている。重度化に向かい始めようとした早い段階で主治医とも相談され、事業所としてできる事、できない事を説明されている。看取りに移行された場合は、家族の意向もよく聞かれた上で、関係職員による利用者への尊厳のある介助支援が実施されていられる。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人全体の研修会で救命救急訓練の研修を行っており人形を使った研修やAEDの使い方などの研修を行っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回の避難訓練(1度は夜間)、1回の水防訓練を行っているがここ最近の防災訓練では地域の方々に参加していただけています。</p>	<p>年に2回の避難訓練を実施されている。災害は夜間に発生する場合もあるので夜勤時の想定もされた避難の訓練もされている。水防訓練も実施されており利用者を3階への移動しなければならない事態を想定されている。近隣住民の協力を得ることがこれからの課題とされている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様一人一人の性格などを鑑みプライドや人権を尊重しプライバシーを損なわないような声掛けを行うようにしています。	職員にはプライバシー保護研修や接遇マナー研修を受講してもらい、利用者とうまく向き合っていくかを考えてもらっている。それぞれの利用者の立場になって人権尊重やプライバシー確保に配慮された声掛けをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の利用者様にもご自分で決定ができるように選択していただけるような支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の体調やペースを最大限に尊重しつつ規則正しい生活ができるようにとの思いで個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や着替えの際に次に着る服を一緒に選ぶようにしています。数名の利用者様は化粧水を使用されたりメイクをされる利用者様もいらっしゃいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防の観点から、一緒に盛り付けなどはほとんど行っていませんが、簡単な片づけ等であれば感染対策をして行っていただいています。おやつレクを月に1度ほどのペースで開催し食事が楽しみになるような支援を行っています。	一階の事業所内の厨房で料理された食事が、利用者のいる2階3階へ運ばれている。利用者には食事のあと片付けなどを職員と一緒に手伝ってもらい、やり甲斐を感じ取ってもらっている。おやつレクの時の美味しい食事も楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	一人一人の食事の摂取量や飲み込む力などに合わせて食事の量や形状を変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に合わせて、ケアを行っています。往診で来られている歯科医にもケアの仕方などを相談、レクチャーを受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	Ipadの記録ソフトを使いながら利用者様の排泄パターンを把握し、時間を見てトイレに誘導するなどして排泄がうまくできるように支援しています。	職員が共有し合う事ができるIpadを利用されており、排泄パターン、排泄時間などが把握しやすくされている。時間がきたらトイレ誘導されて習慣化される事になり、失敗も軽減されて自立支援に繋がられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者様にはお腹のマッサージ、体操して頂くなどしています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、安全に配慮し、職員が多い時間帯での入浴になっています。なかなか一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴ができていないのが現状です。入浴時間は長湯の人から短い人まで利用者様に合わせて支援しています。	入浴は週に2~3回予定されている。入浴を拒まれる方は時間差や介助職員を替えられたりしている。出来る限り利用者の要望に応じるようにされている。ゆず湯やしょうぶ湯などの使用もされて季節感も味わってもらっている。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様一人一人のペースに合わせてつつも昼夜逆転などしないようにメリハリをつけながら支援をしています。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬については申し送りノートにて服薬方法など共有しており、わからないことなどあれば同法人の薬局に相談し指示を仰いでいます。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活のお手伝いをして頂き、ご入居様の過去の生活歴や趣味などに合わせて楽しみごとが日常的に継続できるように支援しています。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>なかなか一人一人の希望のタイミングで外出する支援はできていません。コロナ過もあり外出も難しくご家族様に協力していただきながら出かけることも難しいのが現状です。</p>	<p>コロナ過である事から利用者の安全確保が何よりも優先されている。その為に、ここ暫くは外出支援は難しい情勢にあるといえよう。事業所の屋上には気が休まるような庭園があり、外気浴もできるので利用される時もある。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現状、金銭をご自身で管理することができない方がほとんどであり利用者様個人で管理をされている方がいません。職員が定期的に嗜好品や欲しいものなどを伺い、購入しています。一緒にスーパーなどに出向き購入することもあります。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族様との電話はご家族のご希望があれば事務所の電話を使用し本人様と通話して頂いています。居室に回線を引き個人で電話を設置されている利用者様もおられ、希望に沿って、柔軟に対応しています。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は落ち着いた雰囲気になるように配慮しています。季節に合わせた飾りつけなどで四季を感じて頂いたり、屋上では季節に合わせた野菜などを育てて収穫もしています。</p>	<p>採光がリビング全体に行き届き、気持ちも、それに乗じて明るくなっている。壁に飾られている手作り作品の量が適度なものである為、全体的に大人的な雰囲気があり、落ち着きを与えているようである。どこか居間を感じさせるような所もあり、長時間いても寛ぐ事が出来るような共用空間であるといえよう。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有部は長テーブルとソファを設置し談笑したりテレビみられるなどしています。一人の時間も居室もどったりフロアのソファに座るなどし過ごされています。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にご自宅で使用されていた家具をもちこんでいただき、居心地よく過ごしていただけるように配慮しています。ホームでの生活を見ながら家族様と連携を取りつつ模様替えなども行っています。</p>	<p>慣れ親しんだ家具や家電製品も持ち込まれて出来る限り、これまでの家庭に近い環境の中で寝起きされるように工夫をされている。利用者も居室を我が家のように思われている。部屋の掃除は行き届いており清潔さは維持されている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室に表札を掲示したりトイレにはお手洗いの札を設置するなどしてなるべくご自身で自立した生活ができるようにしています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない